



# 高大連携通信

## 第15回高大連携教育研究会(紙上)

第15回教育研究会は紙上開催とし、9月に、前期コロナ禍での本学の授業の取り組みを紹介する「高大連携通信特別号」を発行いたしました。それに対し、連携校より様々なご意見、ご感想、そして高校での取り組み事例の報告をいただきました。それらの一部を紹介させていただきます。

### ご参加いただいた高校

神奈川県立愛川高等学校、神奈川県立相原高等学校、神奈川県立厚木北高等学校、神奈川県立厚木商業高等学校、神奈川県立厚木西高等学校、神奈川県立厚木東高等学校、神奈川県立綾瀬高等学校、神奈川県立有馬高等学校、神奈川県立伊勢原高等学校、神奈川県立小田原東高等学校、神奈川県立座間高等学校、神奈川県立寒川高等学校、神奈川県立中央農業高等学校、神奈川県立秦野総合高等学校、神奈川県立平塚湘風高等学校、神奈川県立藤沢清流高等学校、神奈川県立山北高等学校、川崎市立川崎総合科学高等学校、東京都立町田工業高等学校

## 湘北短期大学における授業取り組みに対して(高大連携通信特別号へのご意見)

本学における前期の取り組みに関して様々なご意見、ご感想をいただきました。紙面の都合上、抜粋、一部編集の上掲載させていただきます。オンライン、対面とも各授業での様々な取り組みを評価いただくとともに、学生アンケートの結果にも興味を持っていただき、これからのあるべき教育の方法、学習環境を考える機会を持っていただいたのではないかと考えております。

### 授業の取り組みに対して

#### オンライン授業:

- Zoom を使用してのオンライン授業やグーグルドライブ、フォームを使用したクラウドサービスの活用など積極的に導入されており、学生に教育の機会を与えられている。
- すべての授業で、オンラインが効果的に取り入れられていることに感銘を受けた。資料では、生徒の満足度がかなり高いことが驚きだった。指導担当の先生方もオンライン授業を行うにあたって、機器の準備やネット環境の整備等、負担が大きいにも関わらず、効果的に使用されていることが伝わってきた。特に、生徒のオンラインでの参加度を見てチャット機能を使用したところ、生徒の反応が良かった、といった例は面白い部分だった。
- このような時期だからこそ、「情報リテラシー」や「WEB 基礎」では、様々なスキルを習得しながらも、オンラインをいかに活用したらよいか考えさせる絶好の機会になったのではないか。
- グループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブラーニングの工夫をしていることに感心。また、対面での意志表示を躊躇する学生が、チャットでは意見をしっかり述べるができるというのも ICT のメリットなのかなと思った。
- 授業内容を動画に記録し復習できるようにしたり、自分のペースで学べるよう動画配信を行うなど、学生に配慮された教育活動がなされていると思う。
- オンライン学習が難しいと思われる“生涯スポーツと健康”や“子どものワークショップ演習”、“音楽実技”など、実習中心の科目であっても工夫次第で自宅での学習ができるとのレポートを拝見し大変勉強になった。
- 「オンライン授業を受講するためにスキルを教えることが大変だった(生涯スポーツと健康)」という気付きは自分も思った。PCやソフトの使い方も結局対面の方が教えやすいので、オンライン授業導入の前段階の準備の必要性を感じる。
- 実際にオンライン授業の模擬授業を見学することや、工夫すべき点などをご指導いただく場があればありがたい。

## 対面授業：

- 対面授業開始後は演習や実習に速やかに取り組んでおり、その点も評価できる。
- 本校でも実技を伴う実験や実習が多くあるので、実技を伴う授業取り組み、形態など参考になった。
- 対面授業の効果を最大限に利用しつつ、感染予防観点からの取り組みは今後も必要となるため、大いに参考になる。

## 全体：

- オンラインと対面の複合型授業の展開など様々な事例、学生へのアンケート結果などが大変参考になり、今後同様の事態が発生した際の参考にしたい。
- 今後もオンラインと対面を複合させた授業の実践例を教えていただきたい。

## 学生アンケート結果に対して

- 学生の感想からもオンラインならではの不便さややりにくさも感じられ、やはり対面授業が最も分かりやすく効果もあるのではないかと考えさせられた。
- アンケート集計を見ても 8 割くらいの学生が満足と答えており、オンライン授業の可能性を感じる。一方でライブ映像や音声に関する不満も上がっており、一人一人の環境が違う中どのように授業を行っていくかの検討をしていく必要があると思った。

## 連携校の取り組み事例

神奈川県では昨年度より全県立高校に ICT 教育環境の整備を進めており、各高校に WiFi 環境の設置、全生徒への Google アカウントの配布が行われました。これから、授業で積極的に活用していこうとする矢先のコロナ禍となり、十分な準備ができないまま、各学校、各先生方の工夫で休校、時差通学、対面授業再開という時期を乗り切ってこられたことがわかりました。以下にアンケートの回答をまとめたもの、抜粋したものを掲載します。(オンラインツールの活用における学校数は回答欄に明記されたもののみ抽出していますので、実際にはより多くの学校が利用されていると思われます。)

### オンラインツールの活用：

- Google Classroom (8 校)  
課題の配布と提出、健康観察、授業動画の配信、リアルタイム授業配信、小テストなど、幅広く使われていました。
- Google Meet (4 校)  
オンラインホームルームや双方向の授業を行った学校がありました。
- Google Form (2 校)  
テストや進路調査、アンケートなどに活用されていました。
- YouTube (8 校)  
英語、音楽、実習他、多くの学校で活用が見られました。
- その他、高校のホームページに課題を提示、スタディサプリや Zoom を活用した高校もありました。

### 特徴的な授業事例：

- スポーツ科学科の特徴を生かし個人でできるトレーニング方法の解説動画を作成。なかなかの力作ができた。
- 美術で、コロナの時事ワードをテーマに作品を制作。
- 2 年生の未来探究の授業：テーマ「探究したい課題を選ぶ」。(1)ワークシート(概要シート)を使用した個別学習で、良い課題とは何かについて理解する(問いの形になっているか/ポジティブな課題であるか/定現可能なものか) (2)ワークシート(整理シート)を使用し、まずは個別学習で自分の問いが適切かどうか判断点検し、その後グループワークでお互いの課題が適切かどうかチェックし合う。

### その他の工夫：

- 食事前に毎日全校放送で感染防止の注意喚起。

- 体育の授業では、用具の消毒を短時間行った。また、集合させる際には周りとの間隔をあけさせるなど配慮を行った。

#### 気付き：

- パワーポイントに音声を含ませた、対面授業での教員なしバージョンを模索したりした。しかし、同様の内容や説明が入っていても、そこに教員の姿がある動画とそうでない動画との間にはかなりの違和感があり、同一内容でも教員の姿が映像にある動画の方が学習効果が上昇するようだった。
- 宿題として作成させたレポートには、板書を含めた説明内容を集約したテキストを付随させて、その部分を自ら学習したのちに問題演習で確認するスタイルのものをを用いたところ、効果的であった。宿題を出す側の工夫で生徒の学習意欲の向上を図っている。
- オンライン化が早急に必要ではあったが、教職員が無理なく行える程度で、わかる職員が、わからない職員に教えながら進めていくことも大切であると感じる。

#### 課題：

- 生徒の端末やネットワーク回線が整わない、また Google アカウントの登録に時間がかかった、機器の扱いに不慣れなど、オンライン授業へのハードルとなっている。
- 授業の動画配信は一方通行なので、生徒の反応、理解の様子が全く分からない。

## 藤沢清流高校事例紹介

小島 昭彦 総括教諭

連携校代表として、藤沢清流高校の小島先生より様々な取り組みをご紹介します。小島先生には第 10 回教育研究会で「教科横断型授業の試み」のご講演をいただいております。

### ■ コロナ禍における本校の特徴的な授業取り組み例

神奈川県立高等学校においては、Google for Education が導入され、Classroom を活用して、学校と生徒との連絡、コミュニケーション、授業等における課題提出、課題の点検・コメント・返却等を行いました。対面授業再開後も、引き続き Classroom の活用は行っております。

#### 【外国語(英語)】

臨時休業中には、YouTube で教科書のポイントを簡潔に説明した動画を視聴させ、配付してある課題に取り組みせ、Classroom で提出をさせることを繰り返しました。動画そのものは一方向型のものでしたが、Classroom 内で生徒からの質問を受け、それに教員が回答することで補いました。

#### 【リーダーシップ開発】

臨時休業中は、課題図書(『高校生からのリーダーシップ入門』(日向野 幹也 著、ちくまプリマー新書)を提示し、KWLD 法(※)でまとめ、対面授業開始時にレポート用紙で提出させるようにしました。

※KWLD 法：■本を読む前に書いておくこと(K:知っていること W:知りたいこと) ■本を読み終えたあとに書くこと(L:知ったこと D:やりたいと思ったこと)に分けて記す方法です。(参考：『学校に頼らなければ学力は伸びる』山本 崇雄)

臨時休業中、Zoom によりオンライン授業を何回か実施しました。

ブレイクアウトルームを活用することで、グループワーク内で一人ひとりが「リーダーシップ」を発揮したり、グループワークにおける各自のリーダーシップ行動に対して、仲間が SBI フィードバック(※※)を行い、振り返りをさせるという、普段の授業で行っていることがそのままできたのは収穫でした。また、授業後の振り返りは、Classroom 内に入力させ、受講生徒で共有させることで、学びを拡げ、次に繋げる効果があったと思います。

※※SBI フィードバック：

ただ、「今日のはよかったよ」みたいな漠然とした伝え方を相手にするのではなく、フィードバック Situation(どんな状況のときに)、Behavior(どのような行動が)、Impact(どのような影響をもたらしたか)を具体的に記して伝える方法。

## 【総合的な探究の時間】

授業ではありませんが、臨時休業に入って間もなく、各生徒が主体的な学びをするよう、次のような呼びかけを行いました。  
\*\*\*\*\*

「あなたは、新型コロナウイルスの影響による臨時休業期間をどのように過ごしましたか。具体的にお聞かせください」

これは、2020年、大学・短期大学・専門学校の「総合型選抜（＝これまでのAO入試）」・「学校推薦型選抜（＝これまでの推薦入試）」に行われる面接試験での質問例（予想）です。あなたは、このようにきかれたらどのように答えますか。あなたは、現在、通学せず主に自宅で過ごす日々、何か具体的な取り組みをしていますか。計画的な学習、読書、探究的な学び、あるいはその他何か打ち込めることを見つけていますか。学校から課題が出る・出ない、試験がある・ないにかかわらず、自分の興味関心を広げ、深めるために、何かに夢中になって欲しいと思います。高校卒業後の進路に繋がる学びに出会えば非常に素晴らしいですね。この時期に取り組んだことを「ポートフォリオ」に残すため、詳細に記録しておくことを勧めます。学んだこと、疑問に思ったこと、学んだことが他の何かに繋がらないか、もっと知りたいこと、自分の人生・社会のために役立つことはないかなど、とにかく、思ったこと・気づいたことはどんどんメモしておくようにしてください。臨時休業期間が終わり、振り返ったとき、毎日をどのように過ごしていたのか、みなさんに書いて提出してもらおうと思っています。

下には、探究的な学びのヒントになるようなものを、一部ですが紹介しました。掲載したものは、堅い内容のものばかりではありません。眺めて少しでも興味を持ったらぜひチェックしてみてください。

\*\*\*\*\*

※掲載 URL を貼っておきます：<https://fujisawaseiryu-h.pen-kanagawa.ed.jp/kadai200311.pdf>

## ■ その他、高大連携事業に関する意見等

高等学校の新しい学習指導要領で、これまでの「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に代わり、生徒による探究的な学びがますます重視されています。いうまでもなく、探究的な学びは「総合的な探究の時間」のみによって伸ばすべきものではなく、すべての科目における学習活動、あるいは教科・科目を超えた横断的な学び、日常生活との繋がりに気づく学びなど、あらゆるものが含まれてきます。授業で学んだことを深め、広げる活動がますます重要になり、高等学校での学びがさらに大学、短期大学等でより専門的に、発展的に行われるものと考えます。ところが、現在の「総合的な探究（学習）の時間」は、高等学校のカリキュラムの中でのみ行われていて、小学校・中学校との連携が図られていないように思うのです。小・中で行われてきたことが、高等学校入学後、もちろん活かされているのだとは思いますが、学校間での連携体制がほとんど皆無のため、もったいないことになっていると感じます。その点、「高大連携」で必要があれば、貴学で開催していただいている研究会のような場で、情報交換・意見交換をすることが比較的簡単に行えます。貴学の教職員の方々に指導・助言をいただいたり、ご支援をお願いすることもできるかと思えます。今後も高大連携を通じて、些細なことでも情報・意見交換をしながら、相互の交流が活発に行われることを期待しております。

## センター長より

リベラルアーツセンター センター長 内海 太祐



特別号の本学でのオンライン教育の取り組みに引き続き、今号では連携校の先生方からのアンケートから、連携校でのコロナ禍の中でのオンライン授業の取り組みをまとめました。周知の事実ではありますが、OECD調査によれば、日本の教育のICT化は加盟している79の国や地域の中で最下位レベルです。人的にも設備的にも十分な資源配分をしてこなかったからではありますが、その限られた資源の中で、先生方の工夫が伺える内容となったと思います。設備的な意味ではなく、方法論として先進的な取り組みをされている高校もありましたので、まだしばらく続くと思われるコロナ禍を乗り切る一助として、この号が先生方のお役に立てればと思います。

## 湘北短期大学リベラルアーツセンター

(担当：北野・高橋・熊谷)

〒243-8501 神奈川県厚木市温水 428  
TEL:046-247-3131 / FAX:046-247-3667  
E-mail: [LAC@shohoku.ac.jp](mailto:LAC@shohoku.ac.jp)  
URL: <http://scopp.shohoku.ac.jp/>  
Twitter: [https://twitter.com/shohoku\\_lac](https://twitter.com/shohoku_lac)



湘北  
ナビットくん

## 高大連携通信 Vol.21

発行日：2020年11月16日

発行元：湘北短期大学

リベラルアーツセンター